

プロジェクトの実施 (大山蒜山三徳山地域)



大山寺



大山山頂



桧水高原



船上山



大山滝



奥大山・鏡ヶ成



蒜山



三徳山



4.1 プロジェクトの実施（大山・蒜山・三徳山地域）

大山・蒜山・三徳山地域は、伯耆三嶺と称される大山、船上山、三徳山を有するなど、古くから修験道の聖地として山岳信仰が盛んであり、大山寺は平成 30 年に開山 1,300 年を迎えるなど、多様な自然環境に歴史・文化を包含した地域である。

平成 27 年 4 月に三徳山地域が、「六根清浄と六感治癒の地～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～」として、また翌平成 28 年 4 月に大山・蒜山地域が、「地藏信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」として日本遺産に認定されたことで、これを観光資源として捉え、各地域ならではのプロモーションを図っている。

歴史・文化においても、大山、蒜山、三徳山は繋がりが深く、これら地域の周遊を促進することを目的に、アクセスルートにおける展望休憩所の整備、案内標識や誘導看板の設置、交通拠点や周遊ルート上において ICT 等を活用した情報発信に取り組んでいくとともに、観光プログラムの策定、地域間での共通ガイドの認証制度を創設し、一体的な取組を進めていく。

外国人旅行者の来訪は、国際定期路線・航路の充実や大型客船の寄港の増加により、韓国、中国からの来訪が多い。平成 28 年 9 月には米子-香港便が就航し、今後香港経由の来訪者の増加が見込まれる。また、アメリカのニュース専門放送局 CNN で「日本の最も美しい場所 31 選」に選ばれるなど、海外に認められた景観の素晴らしさを始め、自然体験、歴史文化等の日本有数の素材がそろっていることから、欧米を中心とした、旅慣れた新しい発見を求めるリピーターの次の目的地として、今後大きく伸びる可能性を秘めている。

インバウンド対策としても、利用拠点となるビジターセンターの再整備を実施し、カフェなどの民間企業を誘致することで快適性と利便性の高いサービスの提供を行っていくほか、公衆トイレの洋式化、多言語対応の看板設置、避難小屋の改修等のハード整備にも取り組んでいく。

また、施設利用料の徴収や、ボランティア活動を組み込んだトレッキングを商品化し料金の一部を管理運営に還元する仕組みを検討するなどにより、施設管理や景観保全、持続可能なオーバーユース対策も考慮していく。

(1) 主要交通拠点から国立公園主要利用拠点までのアクセスルートに係る事項

1) アクセスルートの特定と取組方針

大山蒜山三徳山地域へ来訪する外国人旅行者の交通拠点として、米子空港、境港、JR 米子駅、JR 倉吉駅、米子自動車道・山陰自動車道・山陰道「北条道路」の各 IC を想定する。

交通拠点から大山蒜山三徳山地域の利用拠点を結ぶ二次交通ルートを以下のとおり設定し、重点的に景観形成を図るべきルートとして位置づけ、良質な景観の確保と利便性の向上を図る。また、大山寺から蒜山までを周遊する県道 45・158 号についても同様とする。



2) アクセスルート上で実施する事項

想定されるルートは、一部国立公園区域内も含め鳥取県、岡山県及び関係自治体の屋外広告物条例や景観形成条例で広告物等の乱立を規制しており、主要道路沿線を中心に景観の保全を図っているところである。

今後も法令等による規制を適切に実施し、老朽化などにより景観を阻害するに至った広告物や廃屋施設の整理に努め、現状を維持するとともに、更なる景観改善や公園利用者の利便性の向上が図られるよう、景観に配慮したガードレールへの交換、無電柱化、道路案内看板の多言語化、主要ビューポイントへの誘導看板の充実等を検討する。

また、各ビューポイントまでの様々なアクセス方法を考慮し、公共交通機関における外国語での案内、多様なアクセス手段の構築を検討する。

表 3 アクセスルート上の実施方針

方針	想定主体
平成 29 年度までに、空港と駅を結ぶ国道 431 号に、大山を遠景に弓ヶ浜の白砂青松を眺望するポイントとして展望休憩所（現代版遙拝所）を設置する。	鳥取県
平成 29 年度までに、空港と駅及び大山を結ぶ主要道路において、既存大型道路案内標識（県道標識）の裏面を活用したビューポイント誘導看板を多言語表記で設置し、外国人旅行者の利便性を向上する。	鳥取県
主要交通拠点から各ビューポイント、各ビューポイント間を結ぶ県道等において、アクセス道路の円滑化、沿線の主要箇所における無電柱化や老朽化施設の整理、眺望を阻害する樹木の伐採などの景観改善及び美装化について検討する。	鳥取県 関係市町
山陰道「北条道路」及び北条ジャンクションの整備により、大山ビューポイントと三徳山ビューポイントの周遊観光を強化する。	国土交通省 鳥取県
アクセスルート上にある交通拠点（空港、駅、道の駅等）では、ビューポイントの自然や利用の案内、観光周遊ルートの PR など、タブレット型端末等の利用も含めた情報発信強化を検討する。	要調整
大山蒜山地域において目撃情報が増加しつつあるシカの対策を必要に応じて予防的に実施することで、大山蒜山地域の植生保護を図り、アクセスルートから眺望される自然景観の保持に努める。	環境省 林野庁 鳥取県 市町村
主要交通拠点からの公共交通機関における、各種案内（車内アナウンス、バス停、電光掲示板等）において、外国語対応を進めるとともに、バスルートや本数の拡充、タクシーの利用向上など、多様なアクセス手段の構築を検討する。 また、利用者の旅行プランの拡充に向けて、ビューポイント間における多様な移動手段の構築など、外国人旅行者の利便性の向上を検討する。	交通事業者等
利用者の旅行プランの拡充に向けて、ビューポイントを繋ぐロングトレイルルートの整備の実施により、外国人旅行者の利便性の向上を図る。	鳥取県

(2) 国立公園内に係る事項

1) 大山蒜山三徳山地域全体の取組方針

① 多様なサービスのための民間活用

(i) ビジターセンター等公共施設の民間開放等

- 利用拠点となるビジターセンター等に、ツアーデスクを設置するなどワンストップサービスの充実を図るとともに、カフェなどの休憩施設を誘致して快適性と利便性の高いサービスの提供を行う。
- 公共のキャンプ場では、幅広い利用者層に対応ができるサービスの提供について、ノウハウを有する民間事業者の参入を視野に入れた再整備を検討する。

(ii) 上質な宿泊施設の誘致

- 国・県・市町村等の所管地において、上質な宿泊滞在サービスを提供するにふさわしい環境を有する適地があれば、F I T 層を対象とした戸建てリゾートホテルやオ



ーベルジュ、グランピングの誘致を検討する。

- 既存の旅館等宿泊施設において、洋式トイレへの改修や老朽化対策等の外国人旅行者への対応を目的としたリニューアルのための資金に対する支援を検討する。

(iii) ツアー・プログラム開発とガイド育成

- 大山共通ガイド認証制度を創設し、自然を活用したアクティビティのほか、日本遺産関連施設や歴史文化資源も活用したガイドツアー・プログラムの策定とガイド養成を検討する。

(iv) 利用料等の公園管理への活用

- 施設において利用料を徴収し、施設の管理運営に還元する仕組みを検討する。
- 有料ガイドによるツアーを実施する場合、ツアー料金の一部を管理運営に還元する仕組みを検討する。
- ボランティア活動が活発な大山においては、ボランティア活動を組み込んだトレッキングを商品化し、料金の一部を管理運営に還元する仕組みを検討する。
- 大山環状道路自動車利用適正化の取組によるオーバーユース対策を継続し、快適な利用環境を保持するための協力金徴収を検討する。

② まちなみ等の景観改善

- 主要な利用拠点において、景観を阻害する広告物の撤去やデザインの統一、廃屋の撤去や再整備、無電柱化等を検討する。
- 大山の景観を維持するため、広域のナラ枯れ被害対策を継続する。
- 大山蒜山地域において目撃情報が増加しつつあるシカの対策を予防的に実施することで、大山蒜山地域の植生保護を図り、自然景観の保持に努める。

③ インバウンド対応のための施設整備等

- 利用情報やサービスを提供できる環境がまだまだ不十分であることから、Wi-Fi等整備及びICTの活用を含め、再整備による重点的な対応を検討する。
- トイレの洋式化や既存施設の老朽化など、基盤的部分についての再整備を検討する。
- 滞在時間に応じて楽しめる登山道・施設の充実を図る。例えば、多様なニーズに対応した自然探勝路等の整備を行う。
- 宿泊事業者との連携を図り、宿泊施設の充実とサービスの質の向上につながる取組を促す。
- 主要な利用ルート上における公園区域境界付近において、国立公園エントランス標識の整備を検討する。
- 大山の自然環境を保全していくために、登山道入口に外来種子除去マットを設置・周知啓発を実施し、環境保全対策を検討する。

④ 安全安心対策とルール・マナーの徹底

- 外国人登山利用者の安全安心対策やルール・マナーの徹底を図るため、多言語による標識等の整備、外国人利用者向けのガイド養成、ルール・マナーブック等の作成などについて、地域関係者の協働による取組を推進する。

2) ビューポイント（重点取組地域）に係る事項

① ビューポイントの設定

本地域におけるビューポイントを以下のとおり設定する。

- | | | |
|--------|----------|------------|
| i 大山寺 | ii 大山山頂 | iii 榎水高原 |
| iv 船上山 | v 大山滝 | vi 奥大山・鏡ヶ成 |
| vii 蒜山 | viii 三徳山 | |

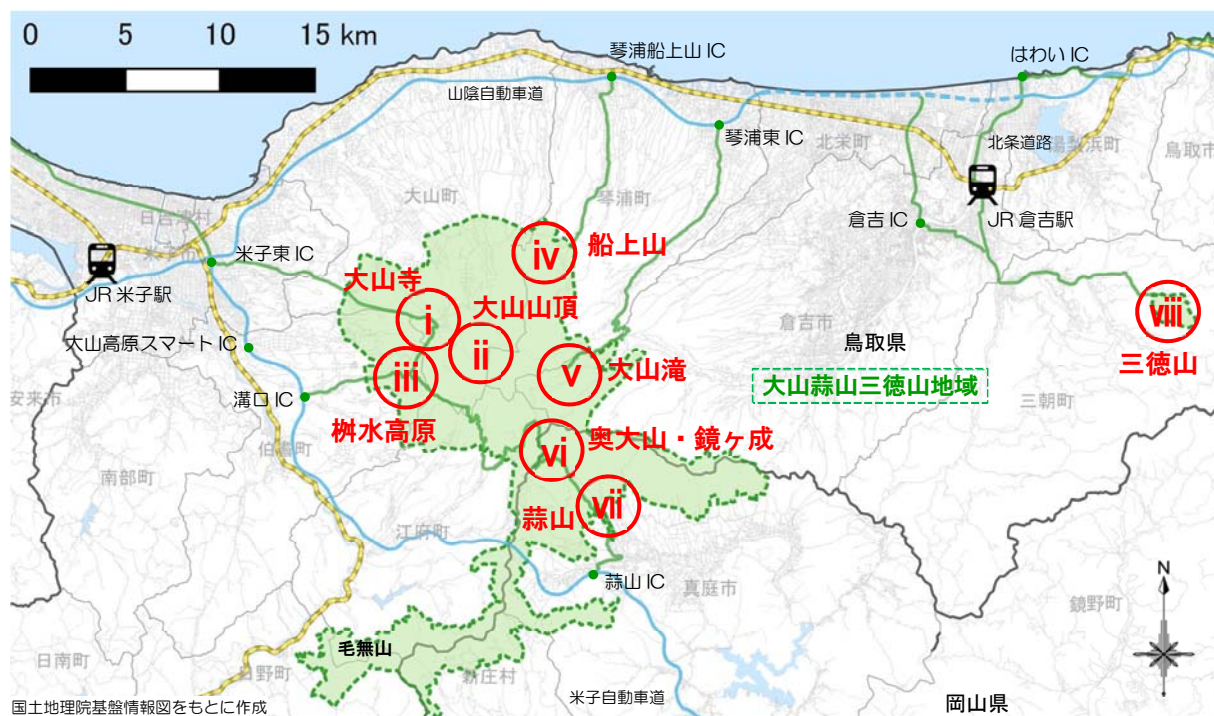


図 13 ビューポイント位置図（大山蒜山三徳山地域）

② ビューポイント等において実施する事項

（i） 大山寺

大山寺地区は、大山の自然と歴史を巡る旅の出発点で、大山観光の拠点となる地区であり、ブナ林に覆われた手付かずの自然に佇むことができる山岳仏教の一大聖地でもある。

登山やスキーなどアクティビティを楽しむ方など四季を通じて大山を訪れる人が集まるエリアで、中でもバスターミナルや駐車場となっており、平安から明治まで日本三大牛馬市で賑わった「博労座」から国重要文化財である「大神山神社奥宮」を結び、老舗旅館が建ち並ぶ石畳の参道は、地藏菩薩への信仰や牛馬市で賑わった往事を偲ばせる佇まいが残されており、仰ぎ見れば大山の荘厳な北壁、眼下に目を移せば日本海、島根半島、弓ヶ浜など優れた海の風景も眺めることができるなど、すばらしい雰囲気を楽しむことができる。

ア) 多様なサービスの提供のための民間活用

a) ビジターセンター等公共施設の民間開放等

表 4 公共施設の民間開放方針（大山寺）

方針	想定事業	想定主体
<p>現在、大山蒜山三徳山地域の玄関口となる大山寺地区は、バス待場と案内機能を持った「大山情報館（環境省）」、博物展示施設と案内・ガイド機能を持った「大山自然歴史館（鳥取県）」、大山蒜山三徳山地域のガイドを主に行う「大山ツアーデスク」が個別に案内やPRを行っている。</p> <p>平成 29 年度までに、各施設における役割の再編・特化に向けた検討を行い、カフェのテナント導入や案内業務を「大山ツアーデスク」に集約させワンストップ化を図ると共に、「大山情報館」の休憩、登山基地機能の強化（休憩スペースの増床、ロッカールームの新設、シャワー室の新設など）、「大山自然歴史館」のコンテンツの更なる拡大などを実施。利便性の向上と利用情報や魅力の発信強化を図る。</p>	大山自然歴史館展示改修	鳥取県
	大山情報館情報提供施設再整備	環境省
	大山ツアーデスク移転 日本遺産情報発信強化拠点構築	鳥取県 大山町
平成 29 年度までに、キャンプ場について、民間による運営希望があれば民間ノウハウを活かした管理運営を考慮した再整備を検討する。	下山・豪円山野営場	環境省

b) ツアー・プログラム開発とガイド育成

表 5 ツアー・プログラム開発とガイド育成方針（大山寺）

方針	想定事業	想定主体
平成 29 年度までに、参道中間に位置する「大山ツアーデスク」を大山寺地区の玄関口エリアへ移転し、環境省・鳥取県施設との連携を図ることで更なる利便性の向上を図り、「大山ツアーデスク」において、豊かな自然を活用した大山ならではのアクティビティのほか、日本遺産関連施設など歴史文化資源を活用したプログラムやガイドの育成についても検討する。	大山ツアーデスク 日本遺産情報発信強化拠点構築	大山町 民間事業者
平成 29 年度までに、利便性の向上や適切な利用の推進を図るため、大山共通ガイド認証制度の創設を検討する。	—	要調整
平成 32 年度までに、新たなアクティビティとしての星空観察ツアー等に向けた環境整備を実施する。	天体観測のための環境整備（豪円山）	大山町

c) 利用料等の公園管理への活用

表 6 利用料等の公園管理への活用方針（大山寺）

方針	想定事業	想定主体
平成 29 年度までに、大山情報館等の事業施設への、有料のロッカーや更衣室、シャワー等の設置を行い、管理費へ反映する仕組みを検討する。	大山情報館情報提供施設再整備	環境省
平成 29 年度までに、「一木一石運動」や「山頂植生復元作業」などの盛んなボランティア活動を組み込んだトレッキングを商品化し、料金の一部を管理運営に還元する仕組みを検討する。	—	大山町 鳥取県 民間事業者

イ) まちなみ等の景観改善

表 7 景観改善方針（大山寺）

方針	想定事業	想定主体
平成 32 年度までに、大山寺地区の核となる参道の景観改善のため、「がっかりポイント」となる廃屋の撤去や、空店舗を活用してカフェ、ツアーデスク、土産物販売所等を誘致した再整備を実施する。	日本遺産情報発信強化拠点構築	鳥取県 大山町 民間事業者
	参道沿い空き店舗活用	大山町
平成 32 年度までに、大山寺地区の玄関口となる博労座駐車場及び周辺から、眼下の島根半島方面及び大山方面への眺望景観改善のため、無電柱化を実施する。	参道沿い景観向上化（無電柱化）工事	鳥取県
平成 32 年度までに、参道の空き店舗を日本遺産の紹介スペースに活用。さらに参道の足下灯を整備して利用者の利便性と景観の向上を図るための整備を実施する。	参道ミュージアムのための環境整備 日本遺産情報発信強化拠点構築	大山町 民間事業者
平成 32 年度までに、大山寺地区の玄関口に当たる、大山情報館建物周辺の整備（大山寺の玄関口としての雰囲気づくり）を実施する。	大山情報館情報提供施設再整備	環境省

ウ) インバウンド対策のための施設整備等

表 8 (1) 施設整備方針（大山寺）

方針	想定事業	想定主体
平成 29 年度までに、大山寺集団施設地区内の公衆トイレの洋式化等を実施する。	トイレ改修[大山寺地区 7 箇所]	鳥取県 大山町
平成 32 年度までに、大山寺地区への入り込み客増や利便快適性、景観向上を図るための駐車場再整備、増設を実施する。	博労座駐車場舗装補修、区画増設、融雪装置設置等	鳥取県

表 8 (2) 施設整備方針（大山寺）

方針	想定事業	想定主体
平成 32 年度までに、外国人利用者の利便性向上に向けた自然歩道の指導標識等の整備、解説板の設置及び多言語表記を実施する。	登山道、中国自然歩道の標識整備等	鳥取県 大山町
大山寺周辺において気軽に自然探勝を楽しみたい外国人等利用者向けに、自然探勝路の整備充実化を図る。 平成 31 年度までに、歩道の改修、コース明確化、ＩＴ等の導入による多言語化、玄関口となる大山情報館との連携強化を図るための再整備を実施する。	下山学習歩道の再整備	環境省
	大山寺園地（中門院谷園地）の園路整備	鳥取県
平成 31 年度までに、外国人利用者のニーズにこたえる運営も踏まえたキャンプ場再整備を実施する。	下山・豪円山野営場の再整備	環境省
平成 32 年度までに、大山を眺望できるポイントで新たな展望所の整備、修景伐採等を実施する。	眺望ポイント「寂靜山」設置工事 豪円山展望スポット整備	鳥取県 大山町
平成 29 年度までに、主要な利用拠点における高速通信回線・Wi-Fi 環境整備を検討する。	—	要調整

（ii） 大山山頂

中国地方最高峰の大山は、日本海に面した孤立峰であり厳しい自然環境となることから特有の生態系が形成されており、四季を通じて年間 6 万人の登山客で賑わっている。また、過去の登山ブーム時に登山者の踏圧が原因で山頂の裸地化が進み、荒涼とした景観であったが、昭和 60 年代から官民連携した山頂植生復元作業を開始。登山者から資材の持ち上げなどの協力を得て、「一木一石運動」などオーバーユース対策の先駆的な取組が展開され、植生が回復しつつある。

山頂からは 360 度のパノラマが広がり、紺碧の日本海と弓ヶ浜からつづく島根半島、天候が良ければ隠岐島を眺めることができ、目を転ずれば蒜山三座や中国山地の秀麗な山々を一望に俯瞰できる。

ア) 多様なサービスの提供のための民間活用

a) ビジターセンター等公共施設の民間開放等

表 9 公共施設の民間開放方針（大山山頂）

方針	想定主体
平成 29 年度までに、大山情報館において、民間事業者による有料登山ガイドの情報提供を行い、大山情報館周辺においては手軽に楽しめるボランティアガイドによるサービス提供を検討する。	環境省
平成 29 年度までに、山頂避難小屋において、民間事業者によるカフェ等の各種サービス提供を検討する。	要調整

b) 利用料等の公園管理への活用

表 10 利用料等の公園管理への活用方針（大山山頂）

方針	想定主体
平成 29 年度までに、「一木一石運動」や「山頂植生復元作業」などの盛んなボランティア活動を組み込んだトレッキングを商品化し、料金の一部を管理運営に還元する仕組みを検討する。	大山町 鳥取県 民間事業者

イ) インバウンド対策のための施設整備等

表 11 施設整備方針（大山山頂）

方針	想定事業	想定主体
平成 32 年度までに、登山客の休憩場所となる避難小屋トイレの洋式化を進めるなど、利便性の向上を図るために、順次避難小屋の再整備を実施する。	避難小屋改修[頂上等 5箇所]	鳥取県
平成 32 年度までに、中国自然歩道沿線の安全向上に向けた改修、ビュースポットの整備を実施する。	登山道改修[夏山等] 中国自然歩道改修 山頂崩落対策	鳥取県 関係町 民間事業者
平成 29 年度までに、大山登山口となる大山情報館において、登山ルートや利用情報提供機能を強化するための再整備を実施する。	大山情報館情報提供 施設再整備	環境省
平成 29 年度までに、登山道入口等に外来種子除去マットを設置し、大山の自然環境を保全する取組を検討する。	—	要調整

(iii) 樹水高原

大山の西側中腹に広がる標高 700～800mの高原。目前に広がる大山は、北壁や南壁のような荒々しさはなく、「伯耆富士」と呼ばれる優美なスロープを描き、春の新緑、秋の紅葉、冬の雪景色を楽しめる。目を転じて眼下を見れば、日本海に湾曲して伸びる弓ヶ浜半島や中海、島根半島が一望できる。

スキー場や宿泊施設、観光牧場やリフトなど各種利用施設が整い、多くの人で賑わう利用拠点となっている。

一方で、一部では周囲を森林に囲まれた自然豊かで静謐な環境もあり、隠れ家的でプライベート性を演出した滞在施設の誘致も期待できる。

ア) 多様なサービスの提供のための民間活用

a) ビジターセンター等公共施設の民間開放等

表 12 公共施設の民間開放等方針（桧水高原）

方針	想定主体
平成 29 年度までに、廃止したキャンプ場用地を活用した、F I T 層を対象とした戸建てタイプのホテルやオーベルジュ、或いはグランピング等が可能となる宿泊施設の誘致を検討するとともに、宿泊滞在者が施設周辺において気軽に自然を楽しめる散策路等の整備を検討する。	環境省 民間事業者

イ) インバウンド対策のための施設整備等

表 13 施設整備方針（桧水高原）

方針	想定事業	想定主体
平成 29 年度までに、集団施設地区内のトイレの洋式化等再整備を実施する。	桧水高原園地再整備	環境省

(iv) 船上山

東・西・北の三方を断崖にかこまれた台地であり、特に東縁は東西 900m にわたって垂直に切り立った岩壁をなし、屏風岩と呼ばれている。この地形を生かし、西暦 1332 年に隠岐を脱出した後醍醐天皇を名和長年がこの地に迎えて鎌倉幕府軍と戦った結果、勝利を掴み建武の中興の先駆けとなった史実は有名である。この屏風岩から下を覗く「船上のぞき」ポイントや、岩下を歩くルートなど変化に富んだ散策コースがあり、麓の「少年自然の家」を中心に学習教育活動も活発に行われている。

標高 616m に植えられた桜は、見頃がゴールデンウィークとなることから、花見客も多く訪れ、春から秋のグリーンシーズンは多くの観光客で賑わう。

ア) 多様なサービスの提供のための民間活用

a) ツアー・プログラム開発とガイド育成

表 14 ツアー・プログラム開発とガイド育成方針（船上山）

方針	想定主体
平成 29 年度までに、「大山ツアーデスク」との連携により、ガイド付きの縦走ツアーなどのプログラム開発と、担い手となるガイド育成の検討を行う。	琴浦町 大山町 民間事業者

b) 利用料等の公園管理への活用

表 15 利用料等の公園管理への活用方針（船上山）

方針	想定事業	想定主体
平成 29 年度までに、船上山の休憩所トイレにおいて、協力金の徴収と管理へ反映する仕組みを検討する。	船上山休憩所	環境省 琴浦町

イ) インバウンド対策のための施設整備等

表 16 施設整備方針（船上山）

方針	想定事業	想定主体
平成 32 年度までに、登山道における外国人利用者の利便性向上に向けた、指導標識、解説板の多言語表記や登山口周辺における情報提供施設、公衆トイレの洋式化、駐車場等の再整備によるインバウンド対応を実施する。	船上山園地	鳥取県 琴浦町
平成 29 年度までに、主要な利用拠点における高速通信回線・Wi-Fi 環境整備を検討する。	船上山園地	要調整

(v) 大山滝

加勢蛇川上流の地獄谷にあり、平成 2 年に「日本の滝百選」に選ばれた県下最大の名滝。一向平から、遊歩道が整備されており、途中、大山滝不動明王の湧き水や、吊り橋を渡りながら、片道約 1 時間のハイキングコースとして、大勢の観光客で賑わっている。

ア) インバウンド対策のための施設整備等

表 17 施設整備方針（大山滝）

方針	想定事業	想定主体
平成 32 年度までに、自然歩道沿線の安全向上に向けた改修、ビュースポットの整備とともに、外国人利用者の利便性向上に向けた指導標識、解説板の多言語表記を実施する。	中国自然歩道改修 [歩道、展望台、案内 標識等]	鳥取県

(vi) 奥大山・鏡ヶ成

鏡ヶ成は、大山寺集落から約 20km、大山主峰の南側に位置しており、烏ヶ山、象山、擬宝珠山に囲まれた標高 930m の盆地状の高原である。鏡のように平らな地形からこの地名がついた。近くにはミネラルウォーターの採水地があるなど恵まれた自然環境にあり、周囲を森と湿原に囲まれた静謐な利用拠点である。

「休暇村 奥大山」を中心に、「手ぶらキャンプ」が可能なキャンプ場なども整備され、静かな環境のなかでアウトドアを満喫したい利用者に人気。また、周辺には自然学習歩道、湿原木道が整備され、手軽に自然を楽しめる場所でもあり、当該地の景観構成要素となっている湿原では保全活動なども行われている。

冬はスキー場へと衣替えするが、あまり混雑することのない穴場のゲレンデとして人気があり、新たな誘客の可能性がある。「休暇村 奥大山」と連携して、ソフトおよびハード面でのインバウンド対応を強化し、自然探勝路等の初級～登山道等の上級者までの幅広い層への対応を行う。

ア) 多様なサービスの提供のための民間活用

a) ビジターセンター等公共施設の民間開放等

表 18 公共施設の民間開放方針（奥大山・鏡ヶ成）

方針	想定事業	想定主体
平成 29 年度までに、民間のノウハウを活かしたキャンプ場の運営を行い、手ぶらでBBQやキャンプが楽しめるなど、サービスのレパートリーを増やし、利用層の幅を広げる検討を行う。	鏡ヶ成野営場	環境省 休暇村 奥大山
平成 29 年度までに、園地でのオープンカフェ等の設置を検討する。	鏡ヶ成園地	環境省 休暇村 奥大山

b) ツアー・プログラム開発とガイド育成

表 19 ツアー・プログラム開発とガイド育成方針（奥大山・鏡ヶ成）

方針	想定主体
平成 32 年度までに、新たなアクティビティとしての星空観察ツアー等プログラム開発と環境整備を実施する。	江府町
平成 29 年度までに、湿原景観の保全の為、湿原乾燥化の要因となるササや低木等の刈り取り、運搬等の作業を行うボランティア活動やツアー・プログラムの開発を検討する。	環境省 民間事業者 休暇村 奥大山
平成 29 年度までに、上級登山プログラムから鏡ヶ成湿原木道、自然学習歩道を活用した初級プログラムまで幅広い層を対象としたツアー・プログラムの開発を検討する。	休暇村 奥大山
平成 32 年度までに、ビューポイントへのライブカメラの設置を実施する。	鳥取県

c) 利用料等の公園管理への活用

表 20 利用料等の公園管理への活用方針（奥大山・鏡ヶ成）

方針	想定事業	想定主体
平成 29 年度までに、キャンプ場施設へ、シャワー等の有料施設を設置し、管理費へ反映する仕組みを検討する。	鏡ヶ成野営場	環境省 休暇村 奥大山
平成 29 年度までに、宿泊者向けのツアー・プログラムの料金の一部について、施設管理や景観維持費へ反映する仕組みを検討する。	鏡ヶ成湿原木道 鏡ヶ成園地、 自然学習歩道	環境省 休暇村 奥大山

イ) インバウンド対策のための施設整備等

表 21 施設整備方針（奥大山・鏡ヶ成）

方針	想定事業	想定主体
平成 32 年度までに、外国人登山者等向けの環境整備として、登山ルート上における休憩場所となる避難小屋の改修等を実施する。	駒鳥避難小屋改修	鳥取県
平成 32 年度までに、外国人利用者等の利便性向上のために、主要な展望地や利用施設の公衆トイレの洋式化等の整備を実施する。	トイレ改修 [鍵掛峠等 2 箇所]	鳥取県
	鏡ヶ成野営場・園地	環境省
平成 29 年度までに、自然探勝を気軽に楽しみたい外国人等利用者向けに、探勝路等の充実を図る。 ※ 既存コースの利用の推進、IT 等の導入による多言語化、利用拠点とのつながり強化	鏡ヶ成園地の再整備 鏡ヶ成学習歩道の活用	環境省
平成 29 年度までに、利用層の幅を広げるためのキャンプ場施設の機能向上を図る。	鏡ヶ成野営場・園地の再整備	環境省
平成 32 年度までに、保全活動により維持された湿原風景などの景観資源を活かした施設整備を検討する。	鏡ヶ成湿原木道の再整備	環境省
平成 29 年度までに、主要な利用拠点における高速通信回線・Wi-Fi 環境整備を検討する。	—	要調整

(vii) 蒜山

中国山地の主峰より北側に独立して主に二俣山、皆ヶ山、上蒜山、中蒜山、下蒜山の各主峰で構成されるが、通常は上蒜山・中蒜山・下蒜山を総称して「蒜山」または「蒜山三座」と呼ばれる。

南側斜面中腹に風光明媚なリゾート地である蒜山高原を抱え、蒜山および蒜山高原一帯は、岡山県下では倉敷美観地区や後樂園・岡山城と並ぶ屈指の観光地であり、観光客数では倉敷（約 300 万人）に次いで 2 番目となる約 250 万人となっている。

蒜山 IC から程近く、白樺の並木やジャージー牛が放牧されたなだらかな高原が広がり、キャンプやサイクリングなどのアクティビティや温泉のある利用拠点となっている。また、近接する大山地域とセットになった観光利用も盛んで、蒜山と大山を結ぶ観光道路である蒜山大山スカイラインがある。

ア) 多様なサービスの提供のための民間活用

a) ビジターセンター等公共施設の民間開放

表 22 (1) 公共施設の民間開放方針（蒜山）

方針	想定事業	想定主体
平成 32 年度までに、民間のノウハウを活かしたキャンプ場運営により、手ぶらで BBQ が楽しめるなど、サービスのレパートリーを増やし、利用層の幅を広げる。	蒜山野営場	環境省 休暇村蒜山高原

表 22 (2) 公共施設の民間開放方針（蒜山）

方針	想定事業	想定主体
平成 32 年度までに、園地でのオープンカフェ等の設置を検討する。	蒜山園地	環境省 休暇村蒜山高原

b) ツアー・プログラム開発とガイド育成

表 23 ツアー・プログラム開発とガイド育成方針（蒜山）

方針	想定主体
平成 32 年度までに、山焼き等の蒜山の地域資源を活用したツアー・プログラム開発とガイド育成について検討する。	岡山県 真庭市
平成 32 年度までに、外国人利用者に人気があるサイクリングを活用したツアー・プログラムの開発及び多目的なイベント開催を検討する。	岡山県 真庭市

※検討・実施に当たっては大山エリアとの連携を意識

c) 利用料等の公園管理への活用

表 24 利用料等の公園管理への活用方針（蒜山）

方針	想定事業	想定主体
平成 32 年度までに、キャンプ場においてシャワー等の有料施設を設置し、運営・管理への活用を検討する。	蒜山野営場	環境省 休暇村蒜山高原

イ) まちなみ等の景観改善

表 25 景観改善方針（蒜山）

方針	想定主体
平成 32 年度までに、景観を阻害する支障木の伐採、廃屋の撤去等を検討する。	岡山県 真庭市
平成 32 年度までに、重要な景観構成要素となっている草原景観の維持に関して、シカの食害対策や希少生物保護の観点から草原植生保護のための対策を検討する。	環境省 岡山県 真庭市
平成 32 年度までに、草原景観を維持するために、地元自治会と連携して、山焼き活動の組織化を検討する。	真庭市

ウ) インバウンド対応のための施設整備等

表 26 (1) 施設整備方針（蒜山）

方針	想定事業	想定主体
平成 30 年度までに、外国人利用者等に当該地の利用情報を提供するため、拠点施設となりえる既存施設の再整備について検討する。	休暇村蒜山高原別館 の改修	岡山県 真庭市 休暇村蒜山高原

表 26 (2) 施設整備方針（蒜山）

方針	想定事業	想定主体
平成 32 年度までに、外国人利用者等がストレスフリーで蒜山地区を楽しめるよう、案内板の多言語化、トイレの洋式化、Wi-Fi スポット及び遊歩道整備等の環境整備を順次実施する。	鬼女台、塩釜、蒜山野営場等の整備	環境省 岡山県 真庭市
平成 30 年度までに、外国人利用者に人気のあるサイクリング利用について、サービスの質の向上を目的としたインフラ整備を検討する。	サイクリングロード標示の充実等	岡山県 真庭市
平成 30 年度までに、誘導標識の多言語化など、登山を行う外国人等利用者向けの環境整備を検討する。	蒜山エリアの登山道の整備	環境省 岡山県 関係市町村
平成 31 年度までに、幅広いキャンプ利用層を取り込むために、対応可能な再整備を行う。	蒜山野営場再整備	環境省

(viii) 三徳山

三朝町東部に位置する標高 899.7m の霊山。中国山地に接しており緩やかな高低を保ちながら大山に達している。北側を三徳川、南側を小鹿川に挟まれた山並みの中心にあり、急峻な尾根と深い谷が形成されて多くの断崖や大岩窟が見られる。小鹿川流域は多くの滝や淵から成る溪谷美をみせ、一帯は国の名勝及び史跡にも指定されている。

ア) 多様なサービスの提供のための民間活用

a) ツアー・プログラム開発とガイド育成

表 27 ツアー・プログラム開発とガイド育成方針（三徳山）

方針	想定事業	想定主体
平成 32 年度までに、日本遺産関連施設や歴史文化資源を活用したツアー・プログラムの展開を目指すとともに、ガイド養成を推進する。	日本遺産情報発信強化拠点構築	要調整

イ) インバウンド対策のための施設整備等

表 28 施設整備方針（三徳山）

方針	想定事業	想定主体
平成 32 年度までに、外国人利用者及び参拝客等の休憩場所、展望施設、トイレの洋式化等の環境整備を行う。	休憩舎、展望台、公衆便所、駐車場 Wi-Fi 環境整備	鳥取県
平成 30 年度までに、外国人利用者等のアクセスが容易となるよう、利便性向上のために案内・誘導標識等の設置及び多言語化等を図る。	園地整備 中国自然歩道の標識整備	鳥取県